

【相談内容】

No99.橋梁の補修設計・補修工事について

○上部工全体に鉄筋露出があった場合の補修方法をコスト面を踏まえて助言いただきたい。

【助言内容】

○補修計画を立てるには、以下のことを踏まえることが有効

- ・道路管理者として対象橋梁に求める性能（耐荷性能、耐久性能など）を整理することが重要
例えば、耐荷性能：現在のまま大型車も通行させる
耐久性能：耐用年数（あと何年持たせる）

- ・また、上記性能を満足させるのに補修後の耐用年数をメンテナンスフリーで考えるのか、補修ありきで考えるのか等について、整理する事が重要

- ・設計においては、損傷箇所の補修と合わせて、損傷要因の排除も考慮して進めることが重要

○鉄筋露出の原因が、かぶり不足による中性化と水の浸透によることだとすると、水の供給を絶つことが重要であるため、鉄筋の腐食原因となっている水の供給がどこから生じているのか確認する必要がある。

○例えば、路面からの浸透によるものであれば、橋面防水を行った上で鉄筋の腐食を除去し、断面修復を実施する必要がある。河川からの湿気によるものであれば、鉄筋の腐食を除去、断面修復した上で、遮水性の表面被覆を行う必要がある。また、地覆からの伝い水によるものであれば、地覆に水切りを設置した上で、鉄筋の腐食を除去、断面修復を行うなど、水の供給経路に合わせた対策と施工手順を検討する必要がある。

○いずれにせよ、対象橋梁の補修設計を行う上で、損傷原因を究明することが重要

○損傷要因の排除（水が原因であれば、止水対策）が不十分なまま、補修を実施すると、再劣化を招く可能性があるため、要因の排除も含めて、補修を行う事によって効率的かつ効果的な対策になると思われる。